
夢殺

潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢殺

【Nコード】

N97500

【作者名】

潤

【あらすじ】

ある日の見た夢でナイフによって刺された部位にケガが残る。そんな不思議な体験をした少年がいた。そのみた夢にでてきたナイフでさしてきた人物がクラスにいた。

さよなら。

「え…」

グサリ。

おいおい。

俺の人生ここまでかよ。

さらば、この世、FOREVER！

なーんてね。

一昨日の朝に見た夢の覚えてる部分だ。

夢だよな？

でも胸に傷跡があるんだが…。

さて俺は誰かといわれると

名前は国崎 翔樹。

男だ。

それ以外に言いようがない。

そんなことよりも

なんて書きにくい名前なんだ。

今朝も学校に向けて登校中。

放課後。

とある女子に呼ばれて教室にて待機中だ。

まー誰か男子のいたずらかも知らんがな。

30分ほどすると。

「あーほんとに待っててくれてたんだ」

女子が来た。

名前なんだ？

しらねえや。

「ああ。

だれか男子のいたずらかと思ったけどな」

「今までありがと。

楽しかったよ。

さよなら」

「え…」

グサリ。

おいマジかよ？

あれは正夢か！。

さらばこの世！。

数分後。

女子はいなかった。

が、確かに胸にはナイフが…。

ってことは俺は本当に死んだんだな。

なんで殺されたんだ？

「今までありがと。

楽しかったよ。

さよなら」

楽しかった？

俺はアイツを知ったのも今だ。

放課後待っててくれといったのは手紙とか言う物体だ。

いや、待て。

俺はこうして考えることができてる。

つまりは生きてるということか。

ならいいか。

いいや、よくない。

これもまた昨日に見た夢の内容だ。

そしてやはり刺された部分には
傷跡が残っていた。
どういうこったあ？

「おいーっす」

朝クラスメート全体にかけた言葉だ。

「昨日一昨日の夢はどうだった？」

「昨日一昨日か…」

ってまさにそこにいたのは

よくわからんが俺を殺そうとした人物だ。

「その前に名前たのむ」

「あーそうね。」

朝門 良子よ」

「朝門か。」

昨日一昨日はお前に殺されたぞ」

「あーやっぱり」

「やっぱりってクラスメート殺しといって

謝る…。

って待て。

どういう意味だ？

俺はここに生きてるぞ」

「てへ。」

最近ね私にね

不思議な力が芽生えたのよ」

「はあ」

「それがこれ。」

あなたは私に昨日一昨日で殺されたのよ」

「はあ？」

というか殺したら警察に捕まるぞ」

「大丈夫よ。」

夢の中で殺しちゃうから。

それであなたは目覚めない」

「ますます意味わからん」

「そのはずなのにあなたはここに
現実にもまた来た。」

私が夢で殺した人物は

皆寝たまま起きてこないはずなんだけどなあ」

「で、俺が唯一の生存者と」

「そうなのよ。」

2回も念を押して殺したのに」

「あーもうお前は何もんだ？」

「暗殺者かな？」

お話はここまでね。

さよなら」

「え…」

3度も同じ手を喰らうかよ。

そう思ったがやはり胸にナイフがグサリ。

ふー。

俺の意識が遠のく。

しっかりしろー。

「夢の中だよな？」

「あら？」

生きてたの。

夢殺失敗は初めてだなあ」

「んなことより…」

困った。

俺の姿が消えそうだ。

「何で俺を殺した？」

「上からの命令よ。」

あなたは将来的に大きな犯罪を犯すから
先に手売つとくと」

「そう、殺された理由がわかったただけでも満足だ」
満足なわけねえだろ。

俺は生きてえ。

そもそも夢殺ってなんだ？

俺が犯す将来的に大きな犯罪ってどんなだ？

「夢殺はそのままよ。」

夢の中で殺してそのまま生きて戻ってこない。
そうね。

死ぬあなたに教えても差し支えないから
教えるわ。

あなたはく連続殺人犯>よ」

「そうかい。」

おまえみたいなのやつはこの世に何人いる？」

「んーまだ聞くの？」

この世に未練たつぷりね。

日本だけでというか私達のいるクラスだけでも
5〜6人かしらね。

名前も教えてあげる」

そういうクラスメートの5〜6人いいやがった。

「そうかい」

俺は俺の胸に刺さっていた

ナイフを抜いた。

これまた夢の中といえど
いたかった。

血がドボドボ出るし。

が、俺は抜いた時点で消え去っていた。
夢の中で死ぬってはやなもんだな。

「うーん」

胸に日に日に傷が増えていく。

俺はなぜか

まだ生きていた。

自前の夢遊病で死ぬ寸前に

起きたのだろう。

まー死ぬのは避けたが

今度は殺さんように気をつけんとな。

多分俺が殺そうとするのは

朝門と同じ夢殺とやらの力をもった

クラスメートだろう。

ぬう。

ほんとに気を付けねば。

翌日。

「もーあなたメンドーだわ」

「朝門。」

いい加減俺を殺すな。

夢遊病で俺は起きる。

それで失敗してるんだ。

わかったらあきらめろ」

「残念。」

もう私はあなたで力使い果たしちゃった」

「そうかい。」

何人夢殺とやらで殺した？」

「犯罪者とー未来から聞いたあなたみたいなの

犯罪予定者で5人かな？」

6人目のあなたで失敗よ」

「素直に自首しろ。」

それがお前に言える言葉だ」

「物的証拠ないものの。

警察も逮捕は不可能よ。

あなたも未来を知ったんだから
殺人事件は起こしちゃダメよ」

「未来を知らずとも殺す気はねえさ」

「でも殺せないけど夢の中に
移る力だけ残ってるから

夢の中でお話しましょうね。

てへ」

「やなことだあ」

(後書き)

はい。

昔書いた小説引っ張ってきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9750o/>

夢殺

2010年11月18日01時22分発行